

誤りパターン埋込み型ステガノグラフィに関する一考察

索手一平†

福岡久雄†

† 松江工業高等専門学校

1 はじめに

ステガノグラフィとは秘密データをメディアデータに埋め込む技術、研究分野の総称である。一般的な通信では秘密データを暗号化し、それを相手に送信する。しかし、この方法では秘密データの内容そのものを隠蔽することはできるが、通信行為そのものは他者に認知されてしまうため通信妨害をうける可能性を排除できない。一方ステガノグラフィではメディアデータ内に秘密データを埋め込むため、第3者に秘密データの存在を認知されずに通信を行うことができる。

ステガノグラフィでは基本的にメディアデータの冗長性を利用して秘密データの埋め込みを行う。しかし、埋め込むデータ量が増加するほどにメディアデータの質は劣化する。ステガノグラフィではその性質からできるだけ多くのデータの埋め込みが可能であること、埋め込みが主観的・客観的に認知されないことが求められる。

本研究ではグレースケール画像にテキスト情報を埋め込むようなステガノグラフィ技術を対象とし、誤りパターン埋込み法における埋め込み率と誤り率、画質劣化とのトレードオフ関係を実験的に明らかにする。なお、画質劣化の指標には SSIM[1] を用いる。

2 誤りパターン埋め込み法の概要

ステガノグラフィ技術における代表的な埋め込み方式の一つである LSB 法では、テキスト情報のバイナリ表現を画像の LSB 平面とそのまま置換することによって埋め込みを行う。この手法はアルゴリズムが単純であり多くの情報を埋め込むことができるが、LSB 平面におけるビット誤りが起きやすい。ここで、埋め込みに使用した LSB 平面のビット列長 n に対し、埋め込んだデータのビット列長 n_{embedded} との割合 $\frac{n_{\text{embedded}}}{n}$ を埋め込み率、変化したビット数 n_{inverted} との割合 $\frac{n_{\text{inverted}}}{n}$ を誤り率という。

LSB 法における誤り率の改善を目的とした方式として、誤りパターン埋め込み法が知られている。この手法

ではテキスト情報を、より冗長でハミング重みの小さいビット列である誤りパターンに変換し、その誤りパターンと画像の LSB 平面との排他的論理和で LSB 平面を置き換える。こうすることで、LSB 法に比べ優れた誤り率を実現している。しかし、埋め込みにより冗長なビット列を必要とすることから、埋め込み率は LSB 法に比べて劣る。

3 誤りパターンの生成

誤りパターンへの変換の単純な実現方法は、テキストを構成する各文字と、それに対応する誤りパターンの対応テーブルを用意するものである [2]。しかし、この方法は 1 つの文字のビット長を m とすると 2^m 個の要素を対応付けるテーブルが必要となり、メモリ制約の強い環境での実装が困難になるという問題がある [2]。

これに対して、本研究では Shalkwijk の数え上げ符号 [3] を用いて、埋め込みデータから誤りパターンを動的に生成する手法を提案する。Shalkwijk の数え上げ符号とは、長さ n 、ハミング重み k で ${}_nC_k$ 種類の 2 進コードを組織的に生成する符号化方式である。

4 実験方法

実験手順の概要を図 1 に示す。以下に示す手順で実験を行った。実験には 256×256px の 8bit グレースケール Bitmap である SIDBA 画像 30 枚を使用し、埋め込みに使用するテキスト情報はほぼ等確率で発生する 8bit コードの列とした。

- (1) メッセージの各コードを Shalkwijk の数え上げ符号を用いて動的に誤りパターンへと変換し、変換した誤りパターンと画像の LSB 平面との排他的論理和を画像へと埋め込む。
- (2) 埋め込み前後の画像を比較し、誤り率、SSIM[1] を算出する。
- (3) 誤りパターン長を 8bit から 256bit まで変化させて (1)、(2) を繰り返す。
- (4) 画像を入れ替えて (3) を繰り返す。

A study on steganography based on embedding error patterns

†Ippei Nawate and Hisao Fukuoka

†Matsue College of Technology

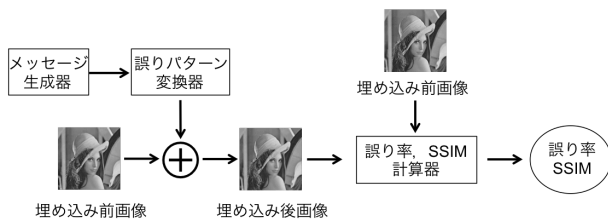


図1 実験概要 1

5 実験結果

誤り率の計測結果と参考文献 [2] において示されている誤り率の理論的下限曲線を図2に示す。なお、誤りパターン埋め込み法における誤り率は埋め込まれるデータの内容にのみ依存するため、画像全てに対して誤り率は等しい。また、SSIM の上位下位 10 枚の画像の埋め込み率に対する SSIM の変化のグラフを図3に示す。

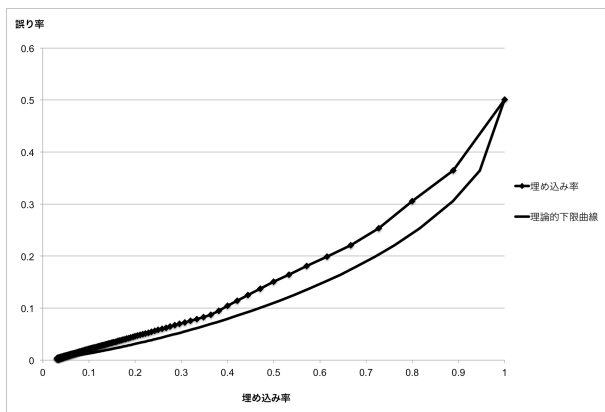


図2 埋め込み率に対する誤り率の変化

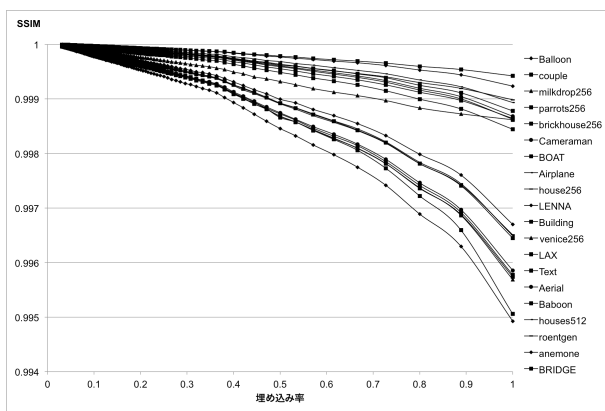


図3 画像ごとの SSIM の変化

図2より、実際に計測した誤り率は理論的下限曲線に

比べ曲率の低い曲線を描くということがわかる。また、この曲線のうち埋め込み率 0.4 以下において、理論限界に近い誤り率を実現できていることがわかる。

SSIM は一般的に 0.98 以上で劣化の見分けがつかないと言われている。図3よりすべての埋め込み率に対して SSIM が 0.98 を上回っていることがわかる。これは、どのような埋め込み率に対しても画質が大きく劣化することはないということを示している。このことから、埋め込みを LSB に限定した場合、埋め込み率、誤り率によって画質が大きく劣化することはない、ステガノグラフィ技術の隠蔽性に大きく影響を与えることはないということがわかる。また、この結果を受け、実験に使用した画像を主観的に観察したところ、SSIM が下がりやすい画像にはコントラストの変化が少ない大きな領域を含んだものが多く、一方で SSIM が下がりにくい画像ではコントラストの変化が全体的に細かいものが多いという傾向が見られた。

6 まとめ

本研究では誤りパターン埋め込み法における埋め込み率と誤り率、画質劣化とのトレードオフ関係を実験的に明らかにした。これによって、埋め込みを LSB に限定した場合、埋め込み率、誤り率によって画質が大きく劣化することはない、ステガノグラフィ技術の隠蔽性に大きく影響を与えることはないということがわかった。

また、Shalkwijk の数え上げ符号を用いた誤りパターンへの動的な変換方法を提案することで、強いメモリ制約下における誤りパターンテーブルの実装問題に対する解決策を示した。

参考文献

- [1] Z.Wang, A.C.Bovik, H.R.Sheikh, and E.P.Simoncelli. Image quality assessment: From error visibility to structural similarity. *IEEE TRANSACTIONS ON IMAGE PROCESSING*, Vol. 13, No. 4, pp. 600–612, April 2004.
- [2] 合田翔, 渡辺峻, 松本和幸, 吉田稔, 北研二. コスト付き符号化を用いたステガノグラフィ. 信学技法 IT, Vol. 113, No. 153, pp. 5–9, 7 2013.
- [3] J.Pieter M.Shalkwijk. An algorithm for source coding. *IEEE TRANSACTIONS ON INFORMATION THEORY*, Vol. IT-18, No. 3, pp. 395–399, May 1972.